

	ねらい	支援内容	具体例
<p>1. 健康・生活</p>		<p>①健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時検温の実施（来所時・昼食時） ・ 保護者や園との食事量・睡眠時間・排泄に関する情報共有 ・ トイレや着替えの際の全身状態の観察
	<p>(a) 健康状態の維持・改善</p> <p>(b) 生活のリズムや生活習慣の形成</p>	<p>②健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレトレーニング ・ 摂食嚥下機能に応じた食事介助（一口量の調節、咀嚼の促し） ・ 安全に食べられるよう姿勢を促す ・ 遊具や直接触れる部分の消毒
	<p>(c) 基本的な生活スキルの獲得</p>	<p>③リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動遊び、ルールのある遊び、感覚遊び等テーマを1週間ごとに設定し、テーマに基づいた活動を実施
		<p>④基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレトレーニング、手洗い練習 ・ 自分の荷物は自分の指定の場所（カゴ）に入れる
		<p>⑤構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の流れを視覚的に提示し、先の見通しをもって過ごせるような環境をつくる・絵本などの読み聞かせを通し視覚からトイレや手洗い、着脱などへの興味を深める。

	ねらい	支援内容	具体例
2. 運動・感覚		①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。	体を動かす活動の週を設け、様々な体の動かし方を取り入れた活動を実施。（例：サーキット、ポールプール、滑り台、お庭での活動） 日常生活動作を遊びの中で取り入れ、生活場面への般化を促していく
	(a) 姿勢と運動・動作の向上	②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助手段を活用してこれらができるよう支援する。	足裏を刺激するマットを足元に置くことで着席、姿勢の保持を促す。 体幹を鍛える運動を取り入れた活動の実施（サーキット活動による平均台）
	(b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用	③身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。	・リズム遊び、サーキット等運動遊びを通して体の使い方の習得、全身の筋肉の発達を促していく ・対象児の興味を引く玩具等を部屋の各所に設置し、補助を行いながら散策を行う
	(c) 保有する感覚の総合的な活用	④保有する感覚の活用 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。	感覚あそび（例：スライム、粘土、寒天遊び、豆あそび、水あそび（プール）、ブランコ、トランポリン、ポールプール） リズム運動 見本を模倣しながらの活動
		⑤感覚の補助及び代行手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。	眼鏡を使用し始めたお子さまに対しては、徐々に眼鏡の使用に慣れていけるよう保護者さまと連携を図りながら装着を促していく
		⑥感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	・感覚遊びにて様々な感触・刺激に慣れていく ・絵カードや例え話を用いて感覚や認知に関する表現を提示

	ねらい	支援内容	具体例
3. 認知・行動		<p>①感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。</p>	<p>・リズム遊びにて曲の停止や速度等をよく聞いて動作に繋げる ・感覚遊びの実施…粘土、寒天、豆遊び、水遊び、氷遊び、色水遊び、砂遊び</p>
	(a) 認知の発達と行動の習得	<p>②知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p>	<p>視覚提示や聴覚提示等お子さまに応じた情報伝達を行い行動を促す (一日のスケジュールの表示・確認)</p>
		<p>③認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。</p>	<p>感覚遊びを通し物の属性や概念の形成を図っている。(例…片栗粉遊び、氷あそび) 空間…サーキットなど設定遊具に合わせて体を動かす 鬼ごっこなど空間を使つての遊び 時間…活動時にタイマーを使って交代、おしまいを伝え場面切り替えを行う</p>
	(b) 空間・時間、数等の概念形成の習得	<p>④数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。</p>	<p>活動の中やお集まり、手遊びや絵本を通し習得へつながらよう支援を行っている 色…絵の具遊び、色水遊び、塗り絵 重さ…水を用いた遊び 形の大きさ…風船遊び、ボール遊び 数…絵本、数歌遊び</p>
	(c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	<p>⑤認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。</p>	<p>感覚刺激に対する過敏・鈍麻それぞれに対応した活動提供を行う 感覚過敏：刺激に対応できるよう徐々に慣れていける環境を提供する(音への感覚過敏であれば場所を移るなどして落ち着ける環境を提供する) 感覚鈍麻：刺激をしっかりと入れることで落ち着いて過ごせるようにする。着席前にしっかりと動いたり手のひらや足の裏からの刺激を入力する</p>
		<p>⑥行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>	<p>集団療育ではマンツーマンに近い支援を行うことで、他者との関わり方をモデル提示したり一緒にやってみる経験の場を提供する 事前に今から起こりうるかもしれない環境の変化を伝えることで過ごしやすくなるよう支援する</p>

	ねらい	支援内容	具体例
4. 言語・コミュニケーション		①言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	・実際に目にしていないこと、体験していることの言語化 ・オノマトペ（擬音語、擬態語）の促し
	(a) 言語の形成と活用	②受容言語と表出言語の支援 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	・気持ちの代弁を行うことで名称や感情とことばの一致を促す
	(b) 言語の受容及び表出	③人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	・互いが同じものを目にし共感することで共同注意の獲得を目指す（例：シャボン玉、風船あそび、ボール転がし）
	(c) コミュニケーションの基礎的能力の向上	④指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	・ことばだけでなく視覚的・聴覚的な情報も併せて伝えることで理解促進を促し、伝達する力も育てていく
	(d) コミュニケーション手段の選択と活用	⑤読み書き能力の向上のための支援 発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	・自身に関わるものや興味のある事柄を交えた活動支援
		⑥コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	・ことばによる声掛けにあわせて絵カードや写真・実物を提示することで理解を促す
		⑦手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用 手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	・ことばだけでなく文字やサイン・手話を用いながら行動や気持ちを表すことで、非言語コミュニケーションでの伝達手段の獲得も促す

	ねらい	支援内容	具体例
5. 人間関係・社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	①アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	・他者との触れ合いも大切に活動を実施
		②模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	・まずはこどもたちの動きやことばを職員が模倣し、次のステップとして模倣を促していく
		③感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	・感覚あそび、手指運動（例：スライム、粘土あそび） ・ままごと遊び、お店屋さんごっこ ・見立て遊び（例：積み木あそび、ブロックあそび） ・やり取りを通して他者との関わり方を促していく
		④一人遊びから協同遊びへの支援 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	・職員がこどもたちの間に入り、こどもたちを繋ぐ役目をするこ とで、場の共有、物の共有、物の貸し借りと、徐々に他者との関りをもった遊び方を促していく
		⑤自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。	・気持ちの言語化 ・絵本やカード遊びなどにより相手の気持ちの理解促進
		⑥集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	・職員がマンツーマンに近い形で支援に入る ・個別療育から利用を始めていき、まずは事業所の環境に慣れることから始め、徐々に他児との関りを持てるよう促していく

	ねらい	支援内容	具体例
家族支援	発達障がいをお持ち保護者さまなどに対して相談支援や児童との接し方などの助言を行うなど子育てに関するサポートを行う	母子通園を通しての療育支援や保護者面談を実施する。 面談や電話・LINEなどを通して相談しやすい環境の整備する。	母子通園・事業所内相談支援・家庭訪問
移行支援	スムーズに地域の保育園や幼稚園への就園、または就学につなげる	児童の特性に合うような地域の保育園や幼稚園等の情報提供を行う。就学児童に対しては、サポートブックの作成や保護者さまへの情報提供・相談支援を行う。	事業所内相談支援・家庭訪問
地域支援・地域連携	地域にお住いの方たちへに対して障害に関する理解を深める機会を増やす	公民館行事や地域行事への参加し、啓発活層などを行う。	地域住民への積極的なあいさつの実施 地域の公園の清掃活動への参加
職員の質の向上	支援技術や知識、職員としての識見の向上を目指す	研修会への参加や勉強会の機会の提供や資格取得のための費用負担やシフト調整などを行う。	職員に対しての各種研修の案内 事業所による研修費用の負担とシフトの調整

主な行事等	ハロウィンイベント	クリスマスイベント	季節を感じる事ができる活動などを随時実施
-------	-----------	-----------	----------------------